

松平家伝来の刀

～刀装の美～

- 会場 1階 松平家史料展示室
- 会期 平成18年9月7日(木)～11月5日(日)

武家社会において刀は、儀礼や贈答において最も重要な品であり、また装いの要でした。刀の外側を飾る刀装も、儀典に定められた儀仗用の格調高いもの、贈答のためにしつらえた豪華なもの、時代の流行や趣味に合わせ洗練されたもの、また地方の特色や故実、剣術の流儀などに合わせた独特の刀装など、さまざまな形式のものが生み出されました。

今回は越前松平家に伝えられたさまざまな刀装の数々を中心に、その美しさ、用いられた技術の高さを御覧いただきたいと思います。

正装の刀

江戸幕府では、正式な場所での服装やしきたりが細かく定められており、刀もその中の重要な要素の一つでした。特に大名が正装した時に携えることを定められたものに、「糸巻太刀」があります。糸巻太刀は室町時代後期に生まれた儀仗（儀式で身につける刀）用の太刀です。展示品は蒔絵の技法をこらし、さらに各所に入念な細工の金具が付属した豪華なものです。葵紋以外にも様々な家紋をつけた各大家の糸巻太刀拵が現存しますが、中でも葵紋のものが多いのは、大名が身に付ける以外に將軍家への献上品、あるいは將軍家からの拝領品として贈答されることが多かったからだといわれます。まさにハレの場において武家の象徴を飾る一品といえます。



葵紋蒔絵糸巻太刀拵（越葵文庫）

さまざまな拵

江戸時代の武家の刀装はかなり形式化されており、糸巻太刀拵のほかにも、たとえば袴を身につけた場合の大小拵（番指・袴指ともいう）など、形状や材質・金具の作者まで細かく定められ、時代を通じて一定の様式が保たれたものがある一方、平常指す刀の拵は、大小拵を基本としながら、流行や剣術の変遷、藩風の相違などによって多種多様なものが生まれました。江戸幕府は武家に対しても常に豪華を戒めていましたが、刀装については贅沢の対象とみなさなかつたことから、鞘塗や刀装具の金工の技術は大いに発展しました。

越前松平家にも、贅を尽くした華やかな拵、ほかに例を見ない異色の拵などが伝えられています。



鯉鱗包鞘大小拵

(替鞘) 蛇皮包鞘

(替鞘) 石目地塗青貝梵字入鞘

(いずれも福井市春嶽公記念文庫)

同じ大小の刀の刀装であるが、替鞘として三種の鞘がつけられており、場面・好みに応じて替えることができる。鯉の鱗や、ニシキヘビの皮を用いた異色の鞘がみられる。

越前拵・越前鉏^{はばき}

江戸時代後期には、庄内拵、尾張拵、加州拵、薩摩拵など、藩によって特色のある拵がつくられました。各大家の好みや剣術の流儀にあわせて、それぞれの特色をみせたものと思われます。

鉏は鞘の中で刀身が動揺しないよう支えるための金具です。ふだんあまり人目に触れない部分ではありますが刀剣鑑賞の一つの重要な見どころでもあり、これまた各大家によってさまざまな特徴のある鉏が用いられました。北陸では加州鉏、越中鉏などが知られています。

越前拵、越前鉏はともに、これまでその存在を推定されてきましたが、現存する資料が少ないため明確に確認されていませんでした。平成17年秋に当館で開催された「越前松平家ゆかりの刀剣」展の準備調査において、当館所蔵の福井市春嶽公記念文庫資料中に大変特徴のある様式の拵・鉏が見出され、また今回、越英文庫（当館寄託）中の資料においても同様の拵・鉏が確認できたことから、これらが越前拵・越前鉏であると結論づけました。

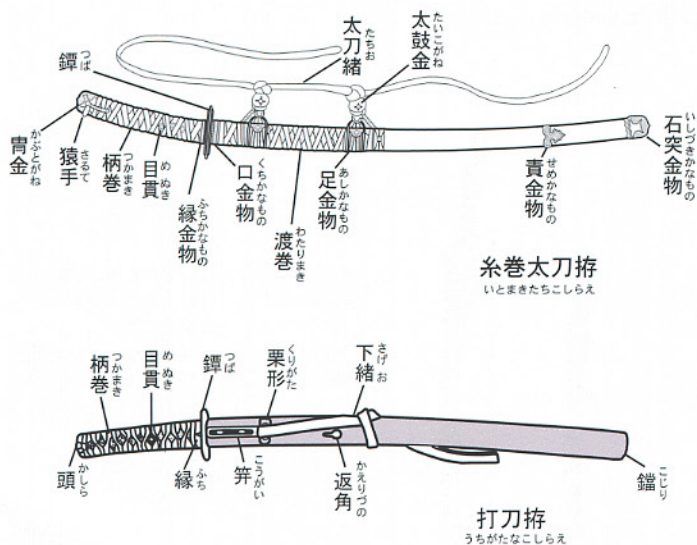
越前拵は縁や頭の金具の、上部と下部の幅差が大きく腰が縮まった形状（冠をつけたような形状）に特徴がみられます。越前鉏は、上具が細い横線を蒔き、下具には大筋違い鉏に玉をつけて蒔いている点の特徴であるといえます。



【刀装・刀装具・拵】

刀剣を携帯し、使用しやすくするための付属装置全体を刀装といい、その部品を刀装具といいます。各分野の工匠の高度な技術が結集しています。拵とは、刀装の形式のことです。大きく分けて太刀拵と打刀拵がありますが、両者は着用のしかたに違いがあり、刀装部位の同じ所でも、時代別、種別で便宜的に名称を区別しています。

拵各部の名称



刀装金具

目貫・小柄・筭は本来、それぞれ柄の目釘飾り、文房具的な小刀、髪搔きという用途を持っていたようですが、しだいに装飾具としての要素が強くなり、彫金加飾を施した華麗なものも多く生まれました。揃いの金具は「二所物」（目貫・筭）・「三所物」と呼ばれ、ほかの刀装具とは独立して鑑賞や収集の対象となり、江戸時代工芸美術の一つの特色となりました。

松平家においても特に目貫などは一揃いづつ封印・包装し、番号を付けて保管されており、コレクションとして大切にされていたことがわかります。



展示解説シート No.21 平成18年9月7日発行

福井市立郷土歴史博物館

〒910-0004 福井市宝永3-12-1
電話(0776)21-0489 FAX(0776)21-1489
担当 松村 知也

今回の企画にあたっては、勝山捷容氏（白銀師・鞘師・美術刀剣外装技術保存会会員）より多くの御助言・御助力を賜りました。

特に越前拵・越前鉏についての知見は勝山氏の研究成果によるものであります。